三学期の抱負とその展開

清水エミ子

「おーい、けんちゃんたちのグループはあんなすてきなのを積木でつくってるぞ。ぼくたちもまけないようにしようぜ。」

「あなたが一から五までつくって、わたしが六から一〇までつくるわ。このトランプ一〇までだけにしない。」

「ひとりが、ひとつずつもんだいやじけんをかんがえてつくろうぜ。そうすればぜったいゆかいな、なかなかあがりにならないスゴロクができるものねえ。そこの子たちも入らないかい。」

お正月って（ものの区切りって）こんなに子どもたちを育ててしまうのかしら、と、新しくなったカレンダーをみて考えた。

先生なんかいらないほど、がっちり育ってきた子どもたちの顔をみくらべて、へんな錯覚にとらわれたり、よろこびと、さびしさのようなものを感じたりするのが三学期です。

仕上げの時です。

仕上げはどんな小さなものでも大切です。今までのできばえを正しく点検しなくてはなりません。そして点検の結果を整備して完全に仕上げなくてはならないから大へんなのです。

総合的にひとりひとりの子どもをみなおし、ひとりひとり仕上げておくり出さなくてはならないのです。

身体的・知的・社会的になど細かくたしかめられるような具体的な活動を展開しなくてはならないのです。

また、卒園の時です。二年間、あるいは三年間、一年間と、それぞれ幼稚園生活の楽しみを、胸にしっかりひめておかなくてはならない時です。

楽しい思い出に残る全体としての活動の計画と展開。

なかよし同士での楽しい活動を発展させ、胸にきざみ込むことができるようにさせるキッカケをみつけて、なげかけてあげる大切な指導が待っているのです。

こんな大切な仕事が（指導が）次々に胸にうかんでくると、私は、つい、はり切りたくなるのです。

そのために、私が子どもに強い要求をしすぎそうになる、こわさを感じるのです。

そこで三学期の指導計画は今までよりいっそう細かい注意をはらい、子どもたちが楽しんで活動していくことができるようにしなくてはと、子どもの顔をみつめながら思うのです。

先生がいらなくなったほど活発に活動している子どもたちをみればみるほど、身がひきしまってくるのです。

今のこの子どもたちの活動は、ハリコの活動ではないだろうか。体全体に、今までのつみ重ねの活動がうまっているのだろうか。

そして少し位の衝動にはびくともせず、少し位の水や、ほこりにもびくともせず、いつまでも今のままの強さと美しさを持ちつづけてくれるだろうかと反省と、期待とが入りまじるのです。

◆正月休みが終わった時の子どものたしかめをするための活動

どのくらい、社会の行事を体験してきているかたしかめるため、お正月あそびの再現をダイナミックな活動におきかえて。

①人間トランプや人間スゴロク、人間カルタなどで、あそんでみましょう。

四〇名の学級なら、トランプの数を一〇までにして、ひとりが、ひとつずつのトランプのカードになるのです。

背の小さいじゅんに1・2・3……とやったり、自分の好きな数をグループできめ合ってきめたり、また、数がよくわからない子どもいるので、能力に応じた数を保育者が、与えたりして、数とトランプの型をひとりひとりきめます。画用紙半分位の大きなトランプを（自分のカードを）折紙で型をつくってはったり、クレヨンで描いたりしてつくります。

それをくびにぶらさげてカードになり、ホールなどの広い所で、七ならべや、ババぬきなどをします。ババぬきなどのババは保育者がなったり、また、そのカードをごちゃごちゃにしてくばり、うらがえしに首にかけ、友だちにみせないようにババぬきをしたり、七ならべをしたりします。また、カードを裏にしてしんけいすいじゃくもやれます。だれとだれをたたくと数があうなど、かたをたたかれたものはカードを表にし数を出します。

スゴロクも同じようにします。

園庭などに石炭でスゴロクの型を大きくかき、その中にひとりずつ入ってその所のきまりをきめて待っています。（スゴロクになる子どもと、こまになる子どもと、さいころをふる子に分かれてやります。—三名一組）

さいころをふった子が、こまの子に「四」とさいころの目の数を伝えると、こまの子が、四つスゴロクをとんでいきます。

とまったところの場の子どもがここに来たら、三べんまわってワンといってください、とか、五にいかれます、とか、ここに来たらクリスマスのうたをうたってください、とか、その場のやくそくを、こまの子に伝えます。こまになった子は、その約束をそこでやるのです。

この時、七〜八までで上がりになるようにしておくことです。一組上がったら、次の組がすぐ出て行くようにしましょう。

カルタなどは、頭文字を大きくかいたカードをぶらさげ園庭、ホールを自由なところにちらばります。

カードを取る子と取られる子との二組に分けておきます。

保育者が、カルタのことばを、読みあげます。取り手の子は、そのカルタのカードの子をみつけて取ります。

カルタのカードのうしろにはその頭文字だけを大きくかいておいて、ことばつくりをやるとおもしろいでしょう。「二つの字で、ことばをつくってみましょう」と題を出します。

子どもたちは自分ともうひとりの友だちと組んで、ことばをつくるのです。「か」の人と「き」の人で「かき」ができ、「つ」と「る」で「つる」ができるといったように、三つの字、四つの字というように、ことばづくりをやってみます。

年長児などは、小学校入学を前に、こんなあそびから、数や文字に興味関心をもたせるようにしてみてはどうでしょうか。

ダイナミックな活動の中で興味関心を育てていくようにつとめるのです。

②ユーモアや楽しいはなしができるようにします。

お正月、おかしかったことなどを発表させ、なぜ、どこが、ど

うおかしかったか話し合ってみるのです。こんな話し合いは無口な子もついおもしろさにつりこまれてはなし出すのです。

「その時どうしたの。」「さといもがつるんすべってなかなかたべられなかったの。」

「うちのいもうとは、きなこのおもちたべると、みんなきなこをはなのいきでふーってふきとばしちゃうんだよ。」などとはなしだします。

◆冬でなくてはできない活動の中で、たしかめと疑問の心と、やってみようとする態度などから科学心を育てましょう。

③氷つくりをしてみましょう。

どんなところにおいたらよくこおる。

水のあつみでのこおり方のちがい。水をたくさん入れておいた時とうすく入れておいた時の氷のでき方。氷は上の方から下の方へこおっていくこと。

うすい入れものの中に針金で、かんたんな花の型や、丸、四角、三角などの型をつくって入れておいた時の氷のでき方。そして針金をはずすとその型ができることなど楽しませましょう。

氷の上に絵や字を、指でかいてみます。指のあたたかさで、とけて、へこんでかけることをしらせましょう。

こんな時、太陽の力をしらせ、物語づくりをさせたり、この物語を、三月のおわかれ会の劇あそびに発展していくようにていねいにあつかってみてはどうでしょう。

北風と、太陽の関係を楽しいドラマにします。

こんな物語づくりや、劇あそびの中で、かげふみあそびなど、天気のよい時は太陽を体全体にうけさせることを心がけたいものです。一番発育する、一番体をつくるのに大切な時です。全身に太陽を、体をのびのび動かして動きまわらせましょう。

そして複雑なルールの陣とりゲームなどをやりましょう。赤は、青につかまって、青は黄色につかまる、黄色は赤につかまるというような、考えながら体を動かしながら、あそべるおにごっこや陣とりをしましょう。（自分たちでつくった三色のボウシをかぶって）この時、三人が力を合わせて助け合ったり、ルールの作戦をねったりする楽しさを考えあてさせましょう。

「よしおくんがつかまりそうになったらぼくがいけば、むこうはにげるよね」というように、くりかえしてあそんでいるうちに発見できる、ちえをつかみとらせましょう。

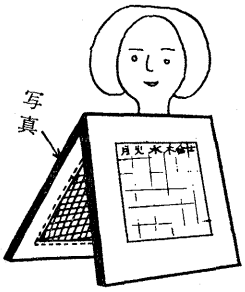
保育者が先にそれを教えるのでなく、はじめはしっぱいばかり、つかまえるだけ、というところからチームワークをどうしたらよいか、考えさせ、ぐうぜんの出会いで助かったり、つかまってしっぱいしたりした時をとりあげて、だんだんにわからせていくという指導の方針で毎日をすごしたいものです。こんな活動でのちえが、生活のちえに育ち、小学校、中学校、大学、成人になった時生活を楽しくしていく土台になるという考え方で、保育者は近い完成をねらうのでなく将来をみつめての毎日の保育の展開を考えていくようにしたいものです。

④記念の作品つくり。

年長児は、幼稚園生活の記念になるような作品をつくってみましょう。

小学校へ入学しても役に立つもの、いつでもみて楽しめるもの、などを、幼稚園生活で身につけた経験をしぼりだしてつくれるように導入をていねいにしたいものです。

・鉛筆立て、牛乳のあきビンや、空カンに新聞粘土をはりつけ、その粘土の中に、夏あつめた（園庭の花だんでとれた）花のたねなどにビニール塗料をぬって（カビやくさり止め）うめこんでデザインしたりすれば、みんなで当番になって水をやり、育てたおしろい花だ、朝がおだったっけ、こんな色のこんな花がさいたんだったけ、幼い友を思い出し、協力し協同して活動した、助け合うことがらを思い出すための記念の作品にはならないでしょうか。



作品のできばえでなく、その作品の中に、保育のねらい、骨が、にじみ出てくるものをひとつでもよいから多く取り入れていくことを考えて作品をつくらせたいものです。

・写真や時間表が入れられる額縁など

表に時間表が入れられるようにし、裏にグループの、クラス全員の写真がさし込めるようにします。

ボール紙などでは水をこぼしたりつよくおしたりするとこわれやすいので、ベニヤ板などをしんに入れ、布などでくるんでつくります。

ロボット写真立て、人形の写真立てなどにすれば、いつでも友

だちを思い出し、仲間のいるよろこびを味わうことができるのではないでしょうか。

・記念帳つくり

一年間、二年間の作品をすべて集めてとじ込むのでなく、ひとりひとりの子どもの発達がわかるようなものだけをとじ込みましょう。

絵でも型にならなかった絵から、型になった時の絵……といったように、自分の成長がはっきりわかるものだけ。

作品も、自分で考えてつくった、知恵をしぼって努力してつくった作品をとじ込みましょう。

そしてその作品に保育者は、この人間の首がなかなかつかなくて、なんどもなんどもやりなおしました、とか、これはわたしが、一番はじめに考えてやってみたあそびです、みんなよろこんでまねをしました、とってもきれいにみえます、など、これからの成長の途上で、がんばればできるんだ、がんばるとこんなよいことがある、自分だって、幼かった時だってがんばっていたんだっけ、こんな楽しいことがあるんだな、これをこんどは、こうしてみようと、考える助けになったり、努力するはげましになるようなものだけを記念帳として、とじ込みたいと思うのです。

そしてその努力のようす、友だちと協力している時のスナップなどの写真があればいっしょにとじ込めればなおさらはっきりはげましになるのではないでしょうか。

幼稚園生活が、これからの人生に役に立つことを祈り、記念しての記念帳にしなくてはいけないと思うのです。

幼稚園にたまったものを整理して持ち帰らせるのなら、そのつどわたしてしまったほうがよっぽどよいのです。

保育者がそれをまとめる時の子どもへの愛と期待はかならず子どもたちはその記念帳から読みとってくれるのです。すくすく育てよとの祈りをこめて、子どもといっしょに記念帳をつくりたいものです。

⑤お別れ会を楽しく。

楽しかった、という思い出に残るような、おわかれ会を計画して展開させたいものです。

会をまとめようとすると、子どもたちは楽しさでなく、苦しさを味わってしまいます。

学級全体が興味を持っているものでまとめていきましょう。

サンダーバードのおわかれ会、ロボットくんのおわかれ会、といったように、興味の高まりを中心にしていくことに心がけましょう。

お母さま方、年少児たちへの招待状も、ロボットの国の〇〇ぐみより、とか、宇宙のロボットよりなどとしてもよいでしょう。

この時、楽しいフォークダンスをおどったり、運動会や生活発表で楽しんだ、劇や、リズムあそびをもう一度やってみるというような気がるな、おわかれ会にしましょう。

仲よしと、いっしょに、すきなものに参加するという型式にしてはいかがでしょう。束縛されず、楽しむ雰囲気を大切にしましょう。

しかしあまり開放されすぎて秩序が乱れないよう、約束はきちんとしてから展開しましょう。

年少児からのプレゼント。

年少児の思い思いの手づくりの作品もいいでしょうが、長い間、楽しんだりつかったりすることができにくいものが多いので、年少児の仲よしとフォークダンスをおどっているスナップ写真を、プレゼントさせたり、鉛筆に、エナメルでデザインして、「いっしょうけんめいべんきょうしてください」と、一年生になるためのはげましにしてはどうでしょう。

この鉛筆をみるたび、つかうたびに、後輩を思いがんばろうとする心が育ったならおわかれプレゼントにも意義があるのではないでしょうか。

・おわかれ、すもう大会、なわとび大会、ドッジボール大会、などと銘うってみてはどうでしょう。

幼稚園全体で、体全体をつかって思う存分体育あそびを楽しんでみるのです。

園長先生も参加してのすもう大会には、よこづなのまわしを先生方とお母さまとでつくっておき、蒲田幼稚園、よこづなのまわし、として一位におくってはどうでしょう。男児用と女児用と別にしましょう。

保育者の手づくりの賞状を贈呈して、大会の楽しい幕をとじるようにしたら、幼稚園のすもう大会、なわとび大会と、思い出はいつまでも残るのではないでしょうか。

三学期に入ってから、おわかれにこれらの大会のあることを知らせ、自分で努力することを奨励しておきましょう。

朝のなわとびで園庭一周ごっこなどは、とてもよい運動と体力づくりに役立つのではないでしょうか。

朝、力いっぱいなわとびをし、すがすがしい気持で一日の活動に入れたら、楽しいと思うのです。

「なわとびめんきょしょう」などをつくって五回とべる、一〇回とべる、二〇回とべる、三〇回、五〇回、八〇回、一〇〇回と

表をつくっておいて、とべるようになったらそこに先生からしるしをつけてもらいます。

時々園庭やホールで記録大会をやっていきましょう。

これはとび箱などの段も記録させるとよいでしょう。

くりかえすうちに前より進歩することを体験させるのには一番よいのです。

できなかったのができた、五回だったのが七回になったという、よろこびと、がんばる力をやしないながら、ひとりひとりに努力することの自信を持たせるようにしましょう。

⑥卒園パーティー（会食）。

お母さまもいっしょに、ホールなどで、会食をしましょう。

自分とお母さまとでつくったパンのケーキで、思い思いにメリケン粉にフクラシ粉を入れたもので作品をつくって、園庭の大きなおなべで、ドーナツのようにあげてもよいし、むし器でふかしてもよいでしょう。（しらたまのようにゆでてもよいのです）できあがった自作のパンに、思い思いのものをつけて、たべるのです。（ジャム、ミツ、クリーム、など）紙皿を用意して、お母さまと楽しみながらたべましょう。

動物の目は、チョコレート、体のほうはジャムでかいてたべましょう、といったように楽しいパーティーをしてはどうでしょう。

紅茶に、果物ぐらいをそえて、楽しい歌をうたい合って一時をすごしてはどうでしょう。

以上のように、卒園、仕上げの活動と考えていくと、かぎりなく、あれもしたい、これもまだやりたりなかったと思う。

○○子には、まだこれが完全に仕上がっていない、○○男はもっとこうすればよかったと後悔やら、あせりやらでどうしようもない気持にかり立てられるものです。

ひとりひとりの子どもをみつめ、仕上げになにを、しっかりつかみ取らせるのかを保育者は三学期のはじめに計画を立てて活動を展開しなくてはならないとつくづく考えるのです。

ひとの話を正しく聞きとり、聞いたり、みたり、考えたりしたことを、勇気を持って、やってみる子、やってみての失敗にくじけない心、そして努力してやりなおし、やりながら考え、そして自分の力で解決していける子にすることを、めざして保育を展開していくようにしたいものです。

（大田区立蒲田幼稚園）